

キリコ祭りを中心とした能登地域の文化的景観の保全と継承

指導教員 金沢大学 講師 白石 英巨

参加学生 秋山 楓斗 小野 君佳 鍵元 未優 多田 凌輔
野田 かんた 萩沢 麗華 史卓宇 邢江龍

本活動の実施に当たり、地域の案内にご協力くださった蛸島町区長会の今井誠様、祭り調査をご快諾くださった会長の梧光洋様をはじめ、調査当日にあたたかく迎え入れてくださった地域の皆さまに感謝いたします。

今年度の活動で明らかにした「祭りの風景の特徴」は、もしかすると能登の各地で見られる「当たり前」のものかもしれません。しかし、つぶさに地域を観察し、その特徴を書き留めるなかで、地域により異なる魅力や地域に共通する普遍的な文化的景観の特徴が見えてくるのではないかと考えています。

本活動は端緒に付いたばかりです。コロナ禍そして2023年の能登群発地震を乗り越え、蛸島町をはじめに能登半島の各地でキリコ祭りが再開し、まだこれからという時に令和6年能登半島地震が発生してしまいました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

能登地域の復旧・復興には様々な課題がありますが、「当たり前」の風景を取り戻すための一助となれるよう、これからも継続的な関わりを保ち続けられればと願います。

キリコ祭りを中心とした 能登地域の文化的景観の保全と継承

金沢大学 人間社会学域地域創造学類 地域居住論研究室（白石ゼミナール）

指導教員：白石英巨

参加学生：秋山楓斗・小野君佳・鍵元未優
多田凌輔・野田かんだ・萩沢麗華
史卓宇・邢江龍



目的 キリコ祭りを軸とした能登地域の文化的景観の特徴の解明

活動 珠洲市蛸島町の町並みと祭り（2023年9月10~11日）の調査・分析

活動概要

地域と密接に関係しながら形成された伝統的祭礼「キリコ祭り」は能登地域の文化的景観の構成要素の一つとなっている。
蛸島キリコ祭りのキリコの動きと観覧者の行動と場所を調査し、祭礼時の空間利用の特徴の抽出から祭りとまちの関係を整理した。

成果

祭りといえ・みちの関係

祭り調査結果を基に、蛸島の道路幅員と敷地幅の関係から祭礼時の観覧者の空間利用パターンを分析し、その特徴として右に示す4つの代表的な類型を抽出した。

祭りと敷地内位置の関係

住居敷地と空地の空間利用位置を比較し、①住居敷地では家側で観覧する傾向があること、②空地のような比較的広い場所では道路側で観覧する傾向があることが分かった。

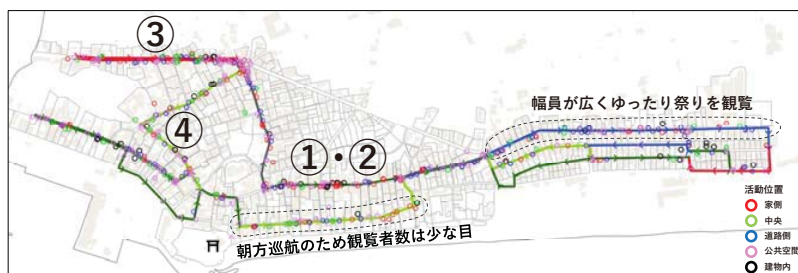
祭りの巡航経路と祭礼行為の分布

- キリコの巡航経路（街路幅員別）と祭りに関連する行為の分布を記録し特徴を分析
- ①伝統的家屋が建ち並び祭りと住まいが近接する地区、②獅子舞が通せんぼをするなど観覧者と祭りが接近する地区、③街路幅員が広くゆったり祭りを楽しめる地区など、巡航経路により異なる特徴を持つことが読み取れる。



祭り観覧者の活動分布

- キリコを追跡し記録した527個の活動のうち一部の場所を分析した。狭幅員の街路では敷地内の家側や縁側で観覧する住民が多く、祭りと観覧者が近接し迫力のある景観を形成する一方、広幅員の街路では敷地内の道路側や公共空間での観覧が多く、空間的な余裕を持って祭りを楽しんでいることが読み取れる。
- 観覧方法の典型的なパターンを4つ抽出し、それぞれに優位な地区を地図に、右図にそれぞれの特徴を整理した。



提案と今後の活動

住居と街路の関係から祭りの観覧方法に傾向があり、場所により異なる祭り景観を形成していることが分かった。伝統的家屋の縁側や座敷の利用は必ずしも多くはないが、祭りと住まいの原風景としての継承が、祭りと結びついた地域性の継承に繋がるのではないだろうか。

本調査において、巡航経路沿いの全住居の外観や全観覧行為を記録した。写真は建物立面が約2,400枚、活動写真は約600枚である。震災前の祭りの姿を記録したアーカイブとしてだけでなく、記憶を継承するための活動など、能登半島地震からの復興の一助になる活動の展開を計画している。

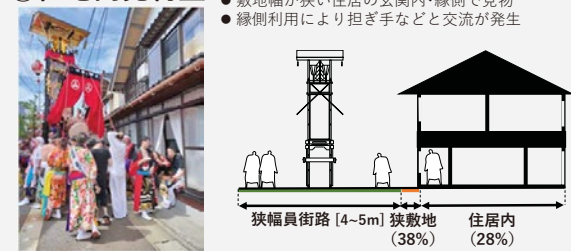
祭りといえ・みちの関係

- 街路幅員と敷地規模の組み合わせにより観覧場所の傾向が異なるため、街路幅員（狭・中・広）ごとに祭りの観覧場所（住居内・家側・中央・道路側）の分布割合を分析し、特に割合が高い4つのパターンを抽出した。
- 蛸島町の中でも場所により異なる祭りの楽しみ方や住居との関係が存在する。

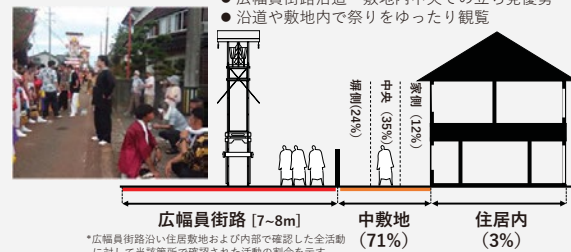
①敷地内見物型



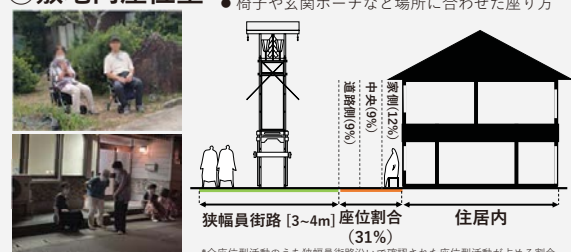
②住宅内見物型



③沿道見物型

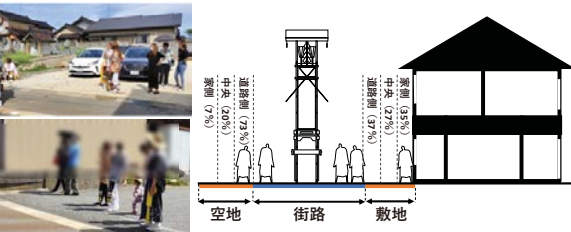


④敷地内座り型



祭りと敷地内位置の関係

- 住居がある敷地と空地における観覧位置の違いを比較すると、敷地内では家側または道路側に寄る傾向があるが、空地の場合は大半が道路側で観覧する傾向があることが分かった。



1. 活動の成果要約

珠洲市蛸島町でのヒアリング調査を通じて蛸島キリコ祭りの特徴や祭礼組織の構成、町並み調査および祭りの巡行経路と行程を把握した。町並み調査では蛸島町のキリコ巡行経路沿いの建物の写真を記録した。祭り当日に祭礼行事の内容および巡行経路沿いの観覧者の活動位置を記録し、ハレの日における公共空間の使われ方を分析した。これらの調査結果から、祭り・住まい・人々の活動の関係を読み解き、蛸島町における文化的景観の特徴として整理した。

2. 活動の目的

能登地域の伝統的行事「キリコ祭り」は日本遺産にも登録された地域の伝統・文化的資源であるが、祭りの継承と継続が課題となっている。「キリコ祭り」の歴史は200年以上とされ、長い時間をかけて地域と密接に関係しながら形成されたものであり、町ごとに執り行われる能登地域の文化的景観の構成要素のひとつと捉えられる。祭りの保全と継承に向けて、祭りの基盤である地域や集落との関係を総合的に読み解くことを大きな目的としている。

本活動では、「蛸島キリコ祭り」を中心に祭礼時のキリコの巡航とそれに伴う人々の行動調査から、能登地域の文化的景観(地域資源)の特徴を明らかにすることを目的とした。

3. 活動の内容

祭り実施時の神事と住民行動の調査から、祭りと地域・住まいの関係を明らかにした。事前調査では蛸島町の空間的な特徴を把握するため、祭りの巡行経路沿いの建物や空地などの写真を撮影した。地理情報システム（GIS）を活用して敷地や住宅の特徴を整理し、部分的に3Dプリンタで町並み模型を作成した。また、並行して蛸島町区長会の協力者の方々に祭りに関するヒアリングを行い、蛸島キリコ祭りの概要や組織運営方法・習慣などを調査した。祭り当日は事前に作成したモバイルGISを利用し、祭り観覧者および祭りに関連した物品の位置と写真を記録するとともに、祭礼行為の手順や内容等を記録した。

調査終了後は、収集した情報をもとに祭りといえ・みちの関係を分析して代表的な類型を抽出し、蛸島町における祭り景観の特徴として整理した。以上の活動の記録を下表に示す。

表 1 活動記録

年月日	内容
2022年9月30日（金）	● 蛸島町区長会との事前協議
2023年4月10日（月）	● 現地調査に向けた蛸島町との事前協議
2023年6月10～11日（土・日）	● 事前調査 ● ヒアリング調査：祭りに関する基礎情報および運営組織に関するヒアリング ● 町並み調査：キリコの巡行経路沿いの建物立面写真撮影
2023年8月4日（金）	● 祭り調査に向けた蛸島町区長会会長への事前説明
2023年9月9～11日（土～月）	● キリコ祭り調査（9日前日入り） ● 9日：蛸島町主要部の全建物の建物立面写真撮影、祭り開催前の神社での神事・祭礼調査、夕方の巡航視察 ● 10～11日：巡行経路沿いの活動・神事・配置施設物品調査

4. 活動の成果

① ヒアリング調査

ヒアリング調査では、蛸島キリコ祭りの概要と習慣、蛸島町の特徴などについて聞き取りをした。蛸島町のキリコ祭りは9月10～11日に実施される。10日の昼に高倉彦神社でお祓いを受け、夜に全町のキリコが集まり前夜祭の様相を呈する。11日は朝に神社から蛸島町全域を巡航する。町内は各「町」に区分され、キリコが自分の「町」までくると自分の「町」のキリコが先頭に入れ替わる。若連中と呼ばれる担ぎ手が出身町のキリコを担ぐが、近年は人口減少により出身地以外のキリコや年代・性別を問わず住民同士の協力が行われている。巡行経路は、西回り・東回りが毎年変わり、基本的に一筆書きをするが、経路が分岐する場合もある。

蛸島町の住居は、切妻入り屋根で下見板が貼られ、玄関脇に掃出窓の座敷が配置される特徴がある。キリコの巡行経路沿いにはこの伝統的意匠を施した住居が多く、修景補助事業が行われた時期もあった。キリコ祭りには「ヨバレ」という招待風習があり、この座敷で漆器を使用し地域の料理をふるまうが、近年はオードブルを注文する事も一般化している。

ヒアリング調査日には、キリコ倉庫やキリコの見学も実施し、当日巡行するキリコや祭り各住宅前に設置される灯籠などを確認した。キリコの作製は大工や職人が手掛け、蛸島町では詳細な図面は作製していない。将来的にキリコの実測調査や装飾の3Dスキャンなどを実施することを検討した。



図1 キリコ倉庫の見学

② 現地調査

事前の町並み調査では、市販の住宅地図およびオープンソースの地理情報を用いて地理情報システム（GIS）で敷地と建物を示す地図を作成し、巡行経路沿いの建物や空地の写真を位置情報とともに記録した。ヒアリング調査で確認したとおり、主要街道沿いに伝統的意匠を持つ住宅が見られ、新しく拡張された地区には現代的な戸建て住宅が分布していることを確認した。また、1筆の敷地内に複数の住居が存在し、各々に増改築を繰り返した複雑な構成となっていることを把握した。

これらの蛸島町の空間な特徴を把握するため、GISで作成した建物外形線に実測・写真から推測した大凡の高さを付与し、3Dプリンタを用いて一部の住宅群の模型を作成した。本年度の活動では、後述の祭り調査に使用する地図の作成を主な目的とし、地域の空間構造に関する分析・評価については継続的な活動を実施予定であったが、令和6年能登半島地震の影響を鑑みて次年度以降の活動を検討している。



図2 伝統的意匠を用いた住居



図3 伝統的意匠を用いた住居

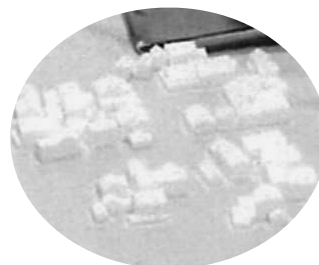


図4 住宅群の模型

祭り調査では、9月10日の祭り初日に、町内のキリコが神社に集合してから解散するまでの神事の詳細な内容と時間、境内での各町のキリコの配置と担ぎ手数などを記録した。9月11日の2日目

は、キリコの先頭に付いて回り巡航経路を記録するとともに、祭り観覧者と祭りに関連した物品の位置と写真、祝詞などの祭礼に関連する行為も同様に記録した。

巡行経路の幅員と経路沿いの祭礼行為の分布から、伝統的住居が建ち並び祭りと住まいが近接する地区、獅子舞が多数登場し祭りと観覧者が接近する地区、街路幅員が広くゆったり祭りを観覧できる地区など巡行経路により異なる特徴を持つことが分かった（図 5、図 6）。



図 5 祭りの巡航経路と祭礼行為の分布

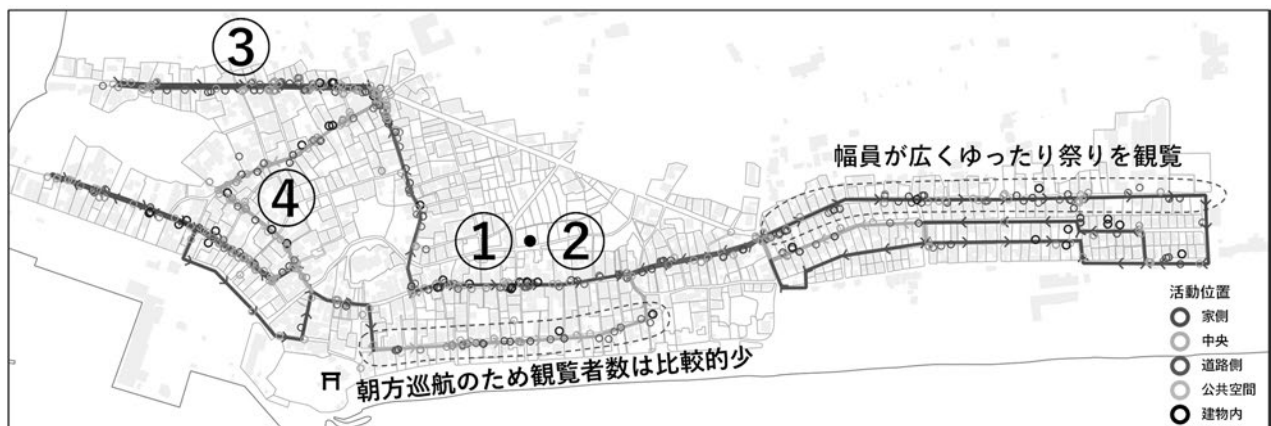


図 6 キリコ祭りにおける観覧者の分布（番号は図 8 に対応）

記録した祭りの活動データには、活動が行われた場所の情報も記録している。街路幅員と敷地規模ごとに活動の分布傾向を分析した結果、狭幅員の街路では敷地内の家側や縁側で観覧する住民が多く、祭りと観覧者とが近接し迫力のある景観を形成する一方、広幅員の街路では敷地内の道路側や公共空間での観覧が多く、空間的な余裕を持って祭りを楽しんでいる様子が明らかになった。これらの分析から抽出した典型的な祭り景観を図 8 に示す。また、住居がある敷地と空地における観覧位置の違いを比較すると、敷地内では家側または道路側に寄る傾向があるが、空地の場合は大半が道路側で観覧する傾向があることが分かった（図 9）。

これらの分析を通じて、住居と街路の関係から祭りの観覧方法に違いが生じ、場所により異なる祭り景観を形成していることが分かった。また、伝統的住居の縁側や座敷の利用（図 7）は必ずしも多くは見られなかったが、祭りと住まいの原風景としての継承が、祭りと結びついた地域性の継承に繋がるのではと考える。



図 7 みちといえの繋がり

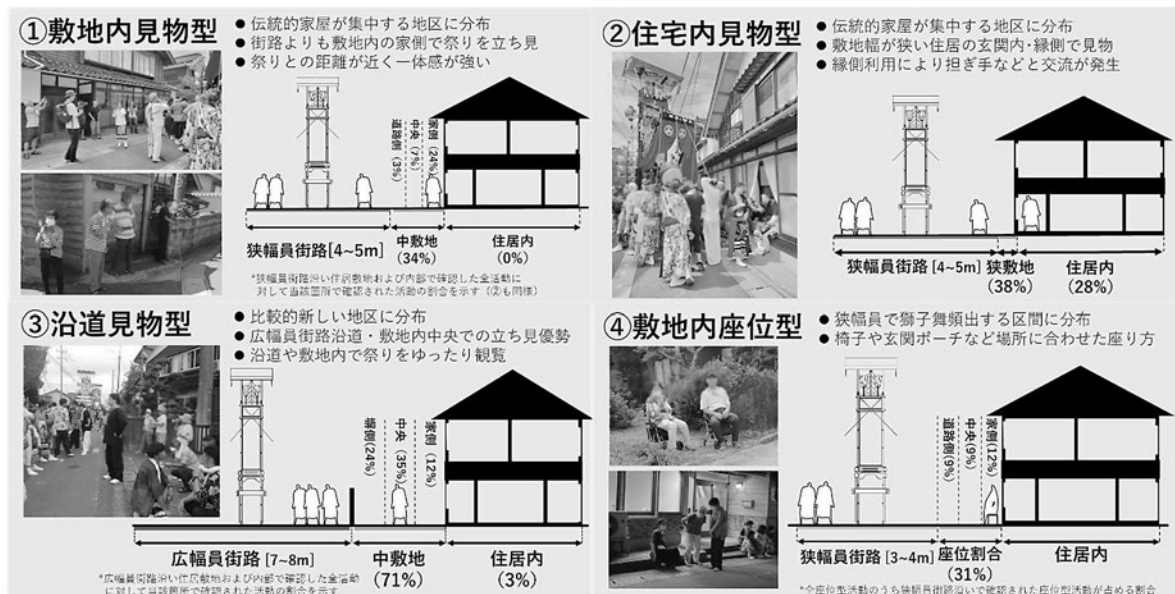


図 8 祭り景観の典型的なパターン

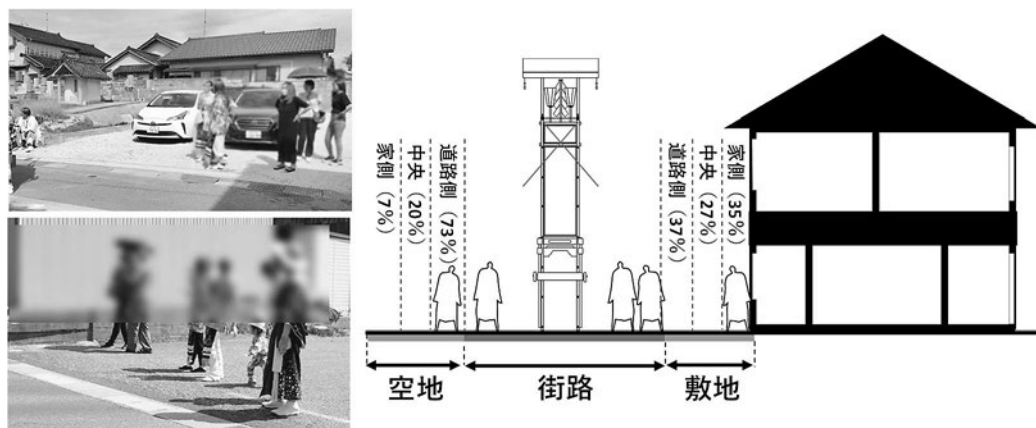


図 9 空地と住居敷地における観覧位置の比較

5. 今後の活動計画

① 景観アーカイブスの作成

本活動で明らかにした祭り景観の典型的なパターンは、どの地域にでも見られる「普通」の風景であるかも知れない。しかし、能登半島沖を震源とする令和6年能登半島地震により、石川県珠洲市蛸島町でも建物の多くが倒壊しその風景と生活に甚大な影響を与えた。本活動では建物の写真2,410枚、祭りの活動写真610枚と多くの画像を記録しており、図らずも地域の景観アーカイブとなっている。今後の復興に間接的に資する可能性があるものとして、地域への配慮をしつつ、フォトグラメトリ技術を活用した地域の町並み・祭りの風景の再現、震災前の模型作成による町並み再現プロジェクトなどを通じて、地域の歴史や伝統の記録・継承・復興の一助とすることを検討している。

② 継続的な祭り・町並み調査の実施

本年度の活動は主に祭り当日の活動分布に焦点を当てたが、祭り運営方法等の調査の多地域展開による地域と祭りの存続・継承戦略の検討、キリコ実測調査等のアーカイブ活動等の継続的な実施を計画している。

6. 活動に対する地域からの評価

令和6年能登半島地震の影響を鑑み、地域からの評価については割愛をする。